

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
真鍋一史			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
矢野 晋吾		青山学院大学 総合文化政策学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	AYGa-120701-0	7人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

質問紙法にもとづく一般成人男女を対象とする大規模な標本調査の全過程を、実習をととして学習した。調査企画、調査票作成は調査主体が行ない、サンプリング、実査、データ・ファイル作成は調査会社に委託したので、これらについては、調査主体、調査会社から説明を受け、その上で、学生は各自の独自の仮説構成にもとづいて、データ分析を行なった。質の高い二次分析の試みがなされた。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

大規模質問紙調査データの二次分析の試み

2. 調査の内容／概要：

JGSS 2008データの二次分析を行なった。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

標本抽出と実査は中央調査社に委託。全国、20歳以上 89歳以下の一般男女から層化二段無作為抽出法で8000人をサンプリング

4. 主な調査項目：

国への愛着、地域への愛着、外国人観、中国イメージ、女性の結婚・就労・家事に対する意識、幸福感、生活満足度、余暇の過ごし方、海外渡航経験、安楽死、宗教意識

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

面接調査法と留置調査法

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2008年10月。中央調査社の調査員による全国調査

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

標本数：8000人 回収率：留置調査票A 58.2% 留置調査票B 60.6% 回収された調査データの量と質は高いものと評価できる。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

単純集計、クロス集計

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

調査項目の相互間の関係の構造が明らかにされた。

10. 報告書刊行の予定と概要：

実習参加者全員のリサーチ・レポートをまとめて報告書を作成した。